

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券		
信託期間	約5年1カ月間（2016年1月29日～2021年3月10日）		
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。		
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ日本企業外債マザーファンド S 2016-01の受益証券	
	ダイワ日本企業外債マザーファンド S 2016-01	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等	
ベビーファンドの運用方法	①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、日系企業が発行する外債建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。 ②劣後債も投資対象とします。その組み入れは純資産総額の30%程度を上限とします。 ③マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。 ④保有実質外債建資産については、（為替ヘッジあり）においては為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。（部分為替ヘッジあり）においては為替ヘッジを行なうことにより、当ファンドの実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざします。 ※保有実質外債建資産とは、当ファンドが保有する外債建資産およびマザーファンドが保有する外債建資産のうち当ファンドに属するとみなした外債建資産をいいます。		
	マザーファンドの運用方法	①運用にあたっては、以下の点に留意します。 イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。 ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。 ハ. 債券の格付けは、取得時においてB B B格相当以上（R & I、J C R、S & P、フィッチのいずれかでB B B-以上またはムーディーズでB a a 3以上）とします。 ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。 ②為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限	
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下	
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。		

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行いません。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ日本企業外債ファンド S （為替ヘッジあり／ 部分為替ヘッジあり） 2016-01

運用報告書（全体版） 第1期 （決算日 2016年9月12日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ日本企業外債ファンド S（為替ヘッジあり／部分為替ヘッジあり）2016-01」は、このたび、第1期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9：00～17：00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<2692>

<2693>

★ダイワ日本企業外債ファンドS（為替ヘッジあり）2016-01

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 回 利	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	元 残 存 本 率
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定 (2016年1月29日)	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	% 100.0
1 期 末 (2016年9月12日)	10,188	140	328	3.3	5.3	87.3	-	100.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

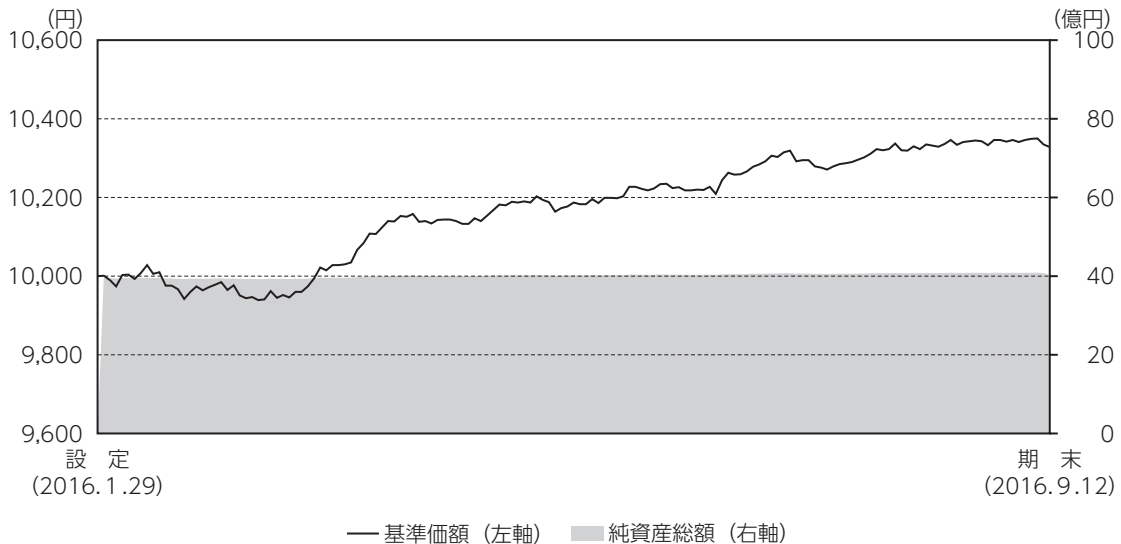
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：10,188円（分配金140円）

騰落率：3.3%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する外貨建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、債券の利息収入などがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本企業外債ファンドS（為替ヘッジあり）2016-01

年 月 日	基 準	価 額		公 社 比 率	債 券 先 物 率
		騰 落 率	率		
(設定) 2016年1月29日	円	10,000	%	%	%
1月末	10,001	0.0	-	-	-
2月末	9,965	△0.4	92.3	-	-
3月末	10,084	0.8	91.5	-	-
4月末	10,154	1.5	90.9	-	-
5月末	10,199	2.0	91.9	-	-
6月末	10,259	2.6	86.0	-	-
7月末	10,302	3.0	87.8	-	-
8月末	10,346	3.5	86.7	-	-
(期末) 2016年9月12日	10,328	3.3	87.3	-	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

投資環境について

○海外債券市況

当ファンド設定後、世界景気に対する過度な悲観論が後退する中、米国ではFOMC（米国連邦公開市場委員会）の声明文や2016年内利上げ回数の見通し引き下げを受けて、利上げペースの減速期待が広がりました。2016年5月にかけて国債金利は方向感なく推移しましたが、米ドルなどの外貨建て社債についてはスプレッド（国債に対する上乗せ金利）の縮小とともに、金利が低下基調となりました。6月には、英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利し、世界経済への悪影響などへの不安が広がったことから、市場のリスク回避姿勢が強まりました。外貨建て社債については、一時的にスプレッドが拡大しましたが、英国での新政権の早期発足により政治的な不透明感が後退したほか、世界的な金融緩和の継続期待にも支援され、国債に連れる形で金利は7月上旬にかけて低下しました。しかし8月後半以降は、米国の利上げ観測が高まったほか、欧州や日本の追加緩和期待が後退し、期末にかけては金利の上昇圧力が強まりました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

○ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを構築しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は140円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額129,470,528円が、経費控除後の配当等収益67,146,380円を超過しているため、純資産額の元本超過額129,470,528円（1万口当り327.84円）を分配対象額として、うち55,288,690円（1万口当り140円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

○ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期		項 目 の 概 要
	(2016.1.29~2016.9.12)		
	金 額	比 率	
信託報酬	34円	0.336%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,171円です。
（投信会社）	(21)	(0.202)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(12)	(0.118)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(2)	(0.017)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.004)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	35	0.347	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2016年1月29日から2016年9月12日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンドS 2016-01	4,496,405	4,440,200	25,140	25,500

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01	4,471,265	4,039,788

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01	4,039,788	97.4
コール・ローン等、その他	109,787	2.6
投資信託財産総額	4,149,575	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝102.64円です。

(注3) ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01において、当期末における外貨建純資産 (5,616,668千円) の投資信託財産総額 (6,136,029千円) に対する比率は、91.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	7,786,522,908円
コール・ローン等	109,787,100
ダイワ日本企業外債 マザーファンドS 2016-01(評価額)	4,039,788,176
未収入金	3,636,947,632
(B) 負債	3,763,148,888
未払金	3,694,148,395
未払収益分配金	55,288,690
未払信託報酬	13,510,137
その他未払費用	201,666
(C) 純資産総額(A - B)	4,023,374,020
元本	3,949,192,182
次期繰越損益金	74,181,838
(D) 受益権総口数	3,949,192,182口
1万口当り基準価額(C / D)	10,188円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,188円です。

■損益の状況

当期 自2016年1月29日 至2016年9月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 49,577円
受取利息	1,549
支払利息	△ 51,126
(B) 有価証券売買損益	518,527,478
売買益	575,728,241
売買損	△ 57,200,763
(C) 有価証券評価差損益	△375,271,413
(D) 信託報酬等	△ 13,735,960
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	129,470,528
(F) 合計(E)	129,470,528
(G) 収益分配金	△ 55,288,690
次期繰越損益金(F + G)	74,181,838

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	140円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

★ダイワ日本企業外債ファンドS（部分為替ヘッジあり）2016-01

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 回 利	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	元 残 存 本 率
	(分配落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定 (2016年1月29日)	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	% 100.0
1 期 末 (2016年9月12日)	9,772	140	△88	△0.9	△1.4	86.8	-	100.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

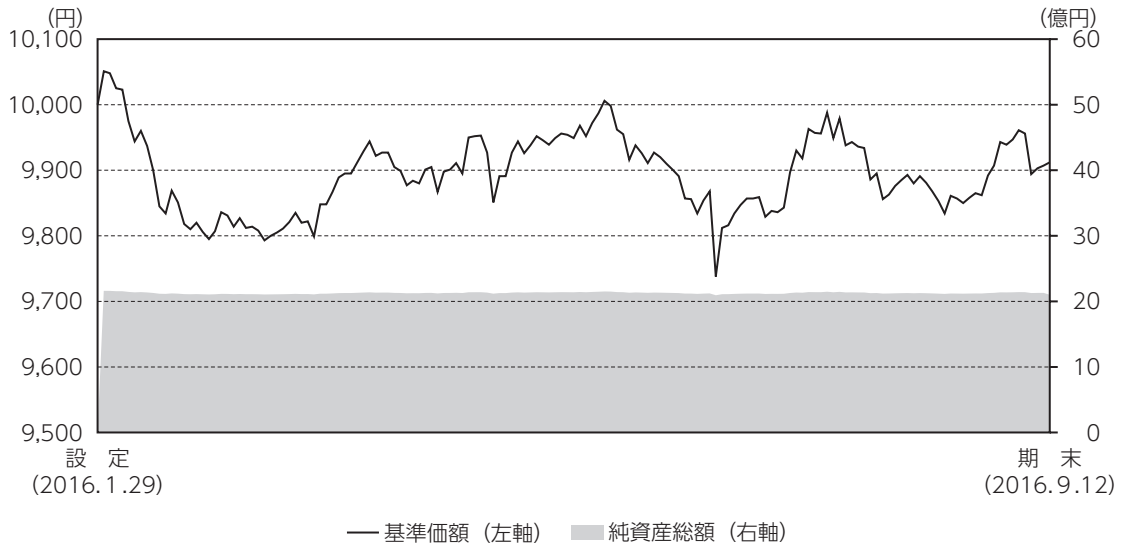
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



（注）期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期 末：9,772円（分配金140円）

騰落率：△0.9%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する外貨建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行なった結果、債券の利息収入などはプラスに寄与しましたが、円高米ドル安を反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本企業外債ファンドS（部分為替ヘッジあり）2016-01

年 月 日	基 準	価 額		公 社 比	債 券 先 物 率
		騰 落 率	率		
(設定) 2016年1月29日	円		%	%	%
	10,000		—	—	—
1月末	10,051	0.5		—	—
2月末	9,831	△1.7		93.8	—
3月末	9,929	△0.7		93.1	—
4月末	9,927	△0.7		93.3	—
5月末	10,006	0.1		93.6	—
6月末	9,847	△1.5		87.1	—
7月末	9,934	△0.7		86.7	—
8月末	9,943	△0.6		85.9	—
(期末) 2016年9月12日	9,912	△0.9		86.8	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

投資環境について

○海外債券市況

当ファンド設定後、世界景気に対する過度な悲観論が後退する中、米国ではFOMC（米国連邦公開市場委員会）の声明文や2016年内利上げ回数の見直し引き下げを受けて、利上げペースの減速期待が広がりました。2016年5月にかけて国債金利は方向感なく推移しましたが、米ドルなどの外貨建て社債についてはスプレッド（国債に対する上乗せ金利）の縮小とともに、金利が低下基調となりました。6月には、英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱派が勝利し、世界経済への悪影響などへの不安が広がったことから、市場のリスク回避姿勢が強まりました。外貨建て社債については、一時的にスプレッドが拡大しましたが、英国での新政権の早期発足により政治的な不透明感が後退したほか、世界的な金融緩和の継続期待にも支援され、国債に連れる形で金利は7月上旬にかけて低下しました。しかし8月後半以降は、米国の利上げ観測が高まったほか、欧州や日本の追加緩和期待が後退し、期末にかけては金利の上昇圧力が強まりました。

○為替相場

米ドルの対円為替レートは下落（円高）しました。当ファンド設定後は、原油価格の低下や英国のEU離脱に対する警戒感、日銀が追加緩和を見送ったことなどを背景に、2016年4月にかけて円高圧力が優勢となりました。しかし、原油価格が上昇に転じる中、世界景気に対する過度な悲観論も後退したことで、米ドル円は下げ止まりました。その後は、米国の早期利上げ観測が後退したことや英国のEU離脱に対する警戒感を背景に、米ドル円は下落基調となりました。7月半ばには英国新政権の早期発足で政治的な不透明感が後退し、市場のリスク回避姿勢が和らいだことで米ドル円はいったん上昇しましたが、7月末に日銀が決定した追加緩和の内容が市場の期待に届かず、米ドル円の上昇は抑制されました。しかし、8月後半に米国の利上げ観測が高まると期末にかけて米ドル円は再び上昇し、設定時からの下落幅を縮めました。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないました。

○ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は140円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が35,961,245円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益35,961,245円（1万口当り167.26円）を分配対象額として、うち30,100,000円（1万口当り140円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行いません。

○ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期		項 目 の 概 要
	(2016.1.29~2016.9.12)		
	金 額	比 率	
信託報酬	33円	0.336%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,893円です。
（投信会社）	(20)	(0.202)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販売会社）	(12)	(0.118)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託銀行）	(2)	(0.017)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0.011	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保管費用）	(0)	(0.004)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	34	0.347	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2016年1月29日から2016年9月12日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンドS2016-01	2,323,667	2,305,300	3,450	3,500

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-01	2,320,216	2,096,315

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-01	2,096,315	97.1
コール・ローン等、その他	61,570	2.9
投資信託財産総額	2,157,886	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝102.64円です。

(注3) ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-01において、当期末における外貨建純資産(5,616,668千円)の投資信託財産総額(6,136,029千円)に対する比率は、91.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	3,407,342,795円
コール・ローン等	61,570,348
ダイワ日本企業外債 マザーファンドS2016-01(評価額)	2,096,315,979
未収入金	1,249,456,468
(B) 負債	1,306,469,903
未払金	1,269,107,525
未払収益分配金	30,100,000
未払信託報酬	7,155,631
その他未払費用	106,747
(C) 純資産総額(A - B)	2,100,872,892
元本	2,150,000,000
次期繰越損益金	△ 49,127,108
(D) 受益権総口数	2,150,000,000口
1万口当り基準価額(C / D)	9,772円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,772円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は49,127,108円です。

■損益の状況

当期 自2016年1月29日 至2016年9月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 21,211円
受取利息	649
支払利息	△ 21,860
(B) 有価証券売買損益	193,812,131
売買益	213,463,188
売買損	△ 19,651,057
(C) 有価証券評価差損益	△ 205,533,365
(D) 信託報酬等	△ 7,284,663
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	△ 19,027,108
(F) 合計(E)	△ 19,027,108
(G) 収益分配金	△ 30,100,000
次期繰越損益金(F + G)	△ 49,127,108

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注3) 収益分配金の計算過程は13ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	140 円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01

運用報告書 第1期 (決算日 2016年9月12日)

(計算期間 2016年1月29日～2016年9月12日)

ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-01の第1期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。</p> <p>※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②劣後債も投資対象とします。その組み入れは純資産総額の30%程度を上限とします。</p> <p>③運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（R&I、JCR、S&P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上）とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。</p> <p>④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

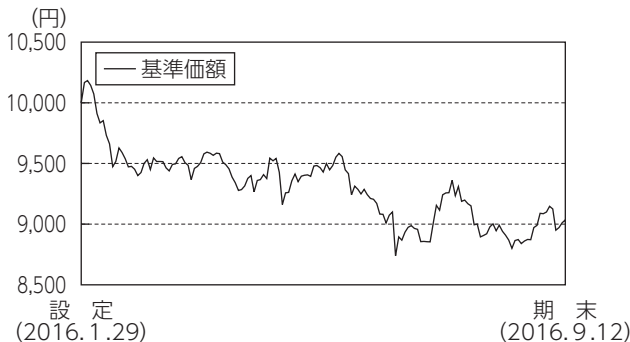
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	公 社 債 組 入 比 率		債 券 先 物 率	
		騰 落 率	組 入 比 率	組 入 比 率	先 物 率
(設定) 2016年1月29日	円 10,000	% -	% -	% -	% -
1月末	10,167	1.7	-	-	-
2月末	9,531	△ 4.7	95.5	-	-
3月末	9,585	△ 4.2	95.2	-	-
4月末	9,427	△ 5.7	96.1	-	-
5月末	9,583	△ 4.2	95.5	-	-
6月末	8,974	△ 10.3	93.5	-	-
7月末	9,151	△ 8.5	92.0	-	-
8月末	9,089	△ 9.1	87.1	-	-
(期末) 2016年9月12日	9,035	△ 9.7	87.0	-	-

(注1) 騰落率は設定比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

設定時：10,000円 期末：9,035円 騰落率：△9.7%

【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する外債建ての社債に投資した結果、債券の利息収入などはプラスに寄りましたが、円高米ドル安を反映し、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○海外債券市況

当ファンド設定後、世界景気に対する過度な悲観論が後退する中、米国ではFOMC(米連邦公開市場委員会)の声明文や2016年内利上げ回数の見通し引き下げを受けて、利上げペースの減速期待が広がりました。2016年5月にかけて国債金利は方向感なく推移しましたが、米ドルなどの外債建て社債についてはスプレッド(国債に対する上乗せ金利)の縮小とともに、金利が低下基調となりました。6月には、英国の国民投票でEU(欧州連合)離脱派が勝利し、世界経済への悪影響などへの不安が広がったことから、市場のリスク回避姿勢が強まりました。外債建て社債については、一時的にスプレッドが拡大しましたが、英国での新政権の早期発足により政治的な不透明感が後退したほか、世界的な金融緩和の継続期待にも支援され、国債に連れる形で金利は7月上旬にかけて低下しました。しかし8月後半以降は、米国の利上げ観測が高まったほか、欧

州や日本の追加緩和期待が後退し、期末にかけては金利の上昇圧力が強まりました。

○為替相場

米ドルの対円為替レートは下落(円高)しました。当ファンド設定後は、原油価格の低下や英国のEU離脱に対する警戒感、日銀が追加緩和を見送ったことなどを背景に、2016年4月にかけて円高圧力が優勢となりました。しかし、原油価格が上昇に転じる中、世界景気に対する過度な悲観論も後退したことで、米ドル円は下げ止まりました。その後は、米国の早期利上げ観測が後退したことや英国のEU離脱に対する警戒感を背景に、米ドル円は下落基調となりました。7月半ばには英国での新政権の早期発足で政治的な不透明感が後退し、市場のリスク回避姿勢が和らいだことで米ドル円はいったん上昇しましたが、7月末に日銀が決定した追加緩和の内容が市場の期待に届かず、米ドル円の上昇は抑制されました。しかし、8月後半に米国の利上げ観測が高まると期末にかけて米ドル円は再び上昇し、設定時からの下落幅を縮めました。

◆ポートフォリオについて

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを構築しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	(0)
(その他)	(0)
合 計	0

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出方法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
 (注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2016年1月29日から2016年9月12日まで)

外 国	アメリカ	特 殊 債 券	買 付 額	売 付 額
			千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
			1,022	(-)
		社債券	49,704	(-)
				(-)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
 (注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。
 (注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
公 社 債

(2016年1月29日から2016年9月12日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄	柄	額
	金 額		金 額
	千円		千円
Mizuho Bank Ltd (日本)	2.7% 2020/10/20		427,925
Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The (日本)	2.85% 2021/9/8		402,163
Sumitomo Mitsui Banking Corp (日本)	2.45% 2020/1/16		402,084
Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd (日本)	2.75% 2020/10/21		397,029
Nomura Holdings Inc (日本)	6.7% 2020/3/4		396,863
AMERICAN HONDA FINANCE (アメリカ)	3.875% 2020/9/21		368,046
Mitsubishi Corp (日本)	3.375% 2024/7/23		367,010
Toyota Motor Credit Corp (アメリカ)	2.8% 2022/7/13		347,563
Nippon Life Insurance Co (日本)	4.7% 2046/1/20		345,825
ORIX Corp (日本)	2.95% 2020/7/23		287,569

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。
(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 外国(外貨建) 公社債(通貨別)

作 成 期	区 分	当		期 末				
		評 価 額		組 入 比 率	う ち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%	
アメリカ	48,323	51,993	5,336,574	87.0	-	37.0	50.0	-

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2) 外国(外貨建) 公社債(銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	期 末			償 還 年 月 日
				額 面 金 額	評 価 額		
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円					
アメリカ	JAPAN FIN. CORP. MUNI. ENT.	特 殊 債 券	2.500%	1,000	1,021	104,819	2018/09/12
	Mizuho Bank Ltd	社 債 券	2.700%	3,700	3,785	388,590	2020/10/20
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社 債 券	2.450%	3,500	3,560	365,487	2020/01/16
	Mitsubishi UFJ Trust & Banking Corp	社 債 券	2.650%	1,000	1,021	104,895	2020/10/19
	Suntory Holdings Ltd	社 債 券	2.550%	1,000	1,018	104,491	2019/09/29
	Toyota Motor Credit Corp	社 債 券	2.800%	3,000	3,141	322,469	2022/07/13
	Nissan Motor Acceptance Corp	社 債 券	2.125%	2,000	2,016	206,946	2020/03/03
	Meiji Yasuda Life Insurance Co	社 債 券	5.200%	2,000	2,272	233,249	2045/10/20
	Sumitomo Mitsui Trust Bank Ltd	社 債 券	2.950%	1,000	1,021	104,838	2018/09/14
	Mitsui Sumitomo Insurance Co Ltd	社 債 券	7.000%	2,000	2,422	248,645	2072/03/15
	Sumitomo Life Insurance Co	社 債 券	6.500%	2,000	2,400	246,336	2073/09/20
	Dai-ichi Life Insurance Co Ltd/The	社 債 券	7.250%	2,000	2,386	244,923	9999/12/31
	Nippon Life Insurance Co	社 債 券	4.700%	3,000	3,288	337,569	2046/01/20
	Fukoku Mutual Life Insurance Co	社 債 券	6.500%	443	525	53,983	9999/12/31
	ORIX Corp	社 債 券	2.950%	2,500	2,575	264,382	2020/07/23
	Sompo Japan Insurance Inc	社 債 券	5.325%	2,000	2,252	231,196	2073/03/28
	AMERICAN HONDA FINANCE	社 債 券	3.875%	3,000	3,251	333,739	2020/09/21
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社 債 券	2.850%	3,500	3,598	369,388	2021/09/08
	Nomura Holdings Inc	社 債 券	6.700%	3,000	3,449	354,077	2020/03/04
	Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd	社 債 券	2.750%	3,480	3,579	367,431	2020/10/21
Mitsubishi Corp	社 債 券	3.375%	3,200	3,401	349,113	2024/07/23	
合 計	銘 柄 数 金 額	21銘柄		48,323	51,993	5,336,574	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	5,336,574	87.0
コール・ローン等、その他	799,454	13.0
投資信託財産総額	6,136,029	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝102.64円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(5,616,668千円)の投資信託財産総額(6,136,029千円)に対する比率は、91.5%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年9月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	6,136,029,029円
コール・ローン等	746,199,394
公社債(評価額)	5,336,574,673
未収利息	53,254,962
(B) 負債	-
(C) 純資産総額(A-B)	6,136,029,029
元本	6,791,482,188
次期繰越損益金	△ 655,453,159
(D) 受益権総口数	6,791,482,188口
1万口当り基準価額(C/D)	9,035円

*設定時における元本額は6,038,200,080円、当期中における追加設定元本額は781,873,255円、同解約元本額は28,591,147円です。

*当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ日本企業外債ファンドS(為替ヘッジあり)2016-01 4,471,265,276円、ダイワ日本企業外債ファンドS(部分為替ヘッジあり)2016-01 2,320,216,912円です。

*当期末の計算口数当りの純資産額は9,035円です。

*当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は655,453,159円です。

■損益の状況

当期 自2016年1月29日 至2016年9月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	118,290,601円
受取利息	118,334,218
支払利息	△ 43,617
(B) 有価証券売買損益	△698,471,563
売買益	135,054,641
売買損	△833,526,204
(C) その他費用	△ 290,089
(D) 当期損益金(A+B+C)	△580,471,051
(E) 解約差損益金	△ 408,853
(F) 追加信託差損益金	△ 74,573,255
(G) 合計(D+E+F)	△655,453,159
次期繰越損益金(G)	△655,453,159

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。